

企画名： たらちねクリニック・プロジェクト 2017 年度

団体名： いわき放射能市民測定室「たらちね」

1. 報告要旨

目標：2017 年度患者受付予定数：14, 5 名程度 年間 2,400 名程度

クリニックの開院は厚生局への申請の都合で1ヶ月遅れ6月からとなった。医療機関の広報は禁忌事項が多く、クリニックを利用する人々に「知ってもらうこと」のは、とても大変なことだと実感した。開院当初は1日の患者数が1人や0人ということもあったが、現在では多いときで10名ほど、少なくとも3名は利用者がある状況となった。目標に掲げた人数がコンスタントに確保できるまでには、あと1年～2年はかかることが予想される。

目標：2017 年度事業収益予定：720 万円（2,400 名×3,000 円程度）

2017年6月～2018年3月までの10カ月のクリニック収入は3,947,660円である。目標の金額には達していないがスタート時の6月は233,670円であった収入が年度末の3月には682,540円までに増加し、毎月、月を追うごとに利用者の人数は増えてきていることがわかる。

目標：診察室では話せなかったことのフォロー体制や、母と子のためのマッサージケア、栄養相談ケア

各方面の専門家と実現にむけて相談を行っている。2017年度にすべてのことが準備できるか今の段階では決定できないが、できれば、それらのケアも2017年度に準備2018年度から標準的に行えるよう構築したい。一人一人を大切に、自分たちが大切に扱われていることを感じてもらえるようなクリニックを目指す考えである。

セラピールーム [Sir Pirika \(シッピーリカ\)](#) を開設し、子どもたちへのマッサージと合わせ母親たちにもマッサージのケアを提供している。また、セラピーとして小児精神科の渡辺久子医師や、心理士でありセラピストである徳山幸江氏と連携し「遊びの力」から人々の心をほぐし、癒やすための「お絵描き」や「粘土」などを取り入れている。2018年度は箱庭による砂遊びのプログラムも開始する予定である。

2. 成果物

1. 「いわき市にNPOがクリニック開設 甲状腺の診察と治療」『朝日新聞』（2017.5.22）
2. [「6月1日、『たらちねクリニック』オープン！」](#)『JPF 国内事業部公式ブログ』（2017.6.2）
3. [「いわきにNPO開設のクリニック 患者の不安に向き合う」](#)『東京新聞』（2017.9.19）
4. 松中みどり [「『ひとりひとりの事情に向き合って』、たらちねクリニック・藤田操院長インタビュー」](#)『アイデアニュース』（2017.12.15）
5. [「＜原発事故＞甲状腺検査の機器そろえ診療所開設」](#)『河北新報』（2017.5.17）
6. [「NPO診療所いわきに お母さんの不安に寄り添う きょう開業 甲状腺、内部被ばく検査も／福島」](#)『毎日新聞』（2017/6/1）
7. [「NPOが『医療施設』開設 いわきに国内初6月1日から診療」](#)『福島民友新聞』（2017.5.26）
8. [今中哲治講演会および測定報告会資料](#)（2018.3.3）
9. たらちねクリニック患者数データ